

● 地域医療支援学レター

LETTERPRESS
VOL.
50
SHIMANE UNIV.
SPRING 2023

WE LOVE

ちしま

地域医療の橋わたし



50



● 地域医療支援学講座15周年記念事業 島根地域医療シンポジウム
コロナ禍後の地域医療を考える

● 活動報告・セミナー報告

● リレートーク第50回『離島で総合診療を実践してみませんか?』
隠岐広域連合立隠岐病院 病院長 徳家 敦夫 先生

島根大学医学部
地域医療支援学講座

島根大学医学部

地域医療支援学講座15周年記念事業

島根地域医療シンポジウム

コロナ禍後の 地域医療を考える

【日時】令和6年12月22日(土)13:00~16:30

【場所】出雲ロイヤルホテル「高砂の間」

【参加者】60名

地域医療支援学講座は、平成22年に島根県の寄附講座として開設され、令和7年春に15年の佳節を迎える。その記念事業として、「コロナ禍後の地域医療を考える」と題し島根地域医療シンポジウムを開催した。

島根県知事、島根大学学長、島根大学医学部長からの祝辞に続き、シンポジウムでは医療行政、大学病院、医学教育、医学生の視点から4名のシンポジストが発表を行った。最後に元島根大学学長 小林病院理事長の小林祥泰氏による講評が行われた。

当講座は、学内関係者をはじめ、島根県、市町村、県内医療機関の御支援によって積み上げられてきたものである。今後も講座としての使命を果たせるよう、新たな歩みを着実に進めていきたい。



来賓の方々



大谷 浩 学長



安食 治外 部長
(島根県健康福祉部)



小林 祥泰 元学長



石原 俊治 医学部長

シンポジスト



椎名 浩昭先生



谷口 栄作先生



佐野 千晶



中尾 光希さん



地域医療支援学講座 スタッフ紹介

設問: ①気分転換方法 ②心がけていること ③好きな言葉

01

教授 医師

佐野 千晶

- ①料理、カラオケ、ダンス
- ②感謝を忘れないこと
- ③慈悲の心

02

助教 救急救命士

布野 慶人

- ①美味しい食事と酒
- ②食べすぎ飲みすぎ注意
- ③継続は力なり・継続しか力にならない

03

助教 医師

堀田 優希江

- ①温泉旅行、ストレッチ
- ②できることをやる
- ③やればできる

04

特任助教 看護師

家本 美佳

- ①家庭菜園や料理、断捨離
- ②日々ポジティブに
- ③その日その時を大切に丁寧生きる



活動報告

2024.11-2025.3

令和6年11月8日(金)

2024年度地域枠等全学年会

「地域枠等の全学年会」は6年生の有志が中心となって当講座と連携し、関係機関等の出席もあり開催された。

初めに椎名病院長にご挨拶を頂き、島根県健康福祉部の安食治外部長には乾杯のご発声を頂いた。続いて学年毎に自己紹介が行われ、エピソード紹介には笑いがこぼれる場面があった。オペラの独唱や「乾杯」の歌の披露もあり、和やかな雰囲気の中で進行した。

また、卒業生も出席し、自身の現況報告や学生たちへのエールを含めたメッセージが送られた。回を重ねる毎に、学年を超えた学生の交流の輪が広がり、親交も深まってきている。同期・同窓生・地域枠等の「つながり」を大切に、夢を持って学生時代を送ってほしいと感じた。

【場 所】出雲ロイヤルホテル
「高砂の間」
【参加者】46名(学生33名)



令和6年9月27日(金)

5年生学年会(懇談会)

【参加者】15名(学生10名)



令和6年10月2日(水)

1年生学年会(ランチ会)

【参加者】11名(学生6名)



令和7年3月4日(火)

3年生学年会(ランチ会)

【参加者】19名(学生14名)



令和6年11月21日(木)

ドクターキャリア形成特別講義

午前の部は広島大学医学部教授蓮沼直子先生を迎え、医師夫婦に起こりうるトラブルケースのシナリオについてグループワークを行った。代表グループが意見をまとめるプロセスを発表し、他の学生グループからも理解と共感を得て充実感のある時間となった。

午後の部は院内から医師3名を講師として迎え、これまでのキャリアや経験に基づく貴重なアドバイスが学生達に伝えられた。医師会特別講演では島根医科大学卒業生で、信州大学信州がんセンター教授間宮敬子先生に、海外留学のお話や、「緩和ケアと地域連携の取り組み」についてご講演いただいた。

このプログラムは医学生が自身のキャリアを考える貴重な機会であり、今後も継続していきたい。

【場 所】島根大学医学部
臨床大講堂
【対 象】島根大学医学部
医学科4年生
【主 催】島根大学医学部
地域医療支援学講座
島根県医師会



令和6年11月26日(火)

地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)&第15回日本プライマリ・ケア学会学術大会報告会

地域医療体験実習Ⅱには31名、学会報告会には4名が参加した。実習は島根県内外の5施設で実施された。報告会では、医療法人もたろう往診クリニックの小森栄作先生と波佐診療所の佐藤優子先生がWebで参加され、佐野教授から「振り返り報告を行い実習は完結する」とのお話があった。

プライマリ・ケア学会では「アルコール依存症」をテーマにしたポスター発表の報告があり、地域医療実習報告では「地域医療は住民が支えて育てられる」という言葉に感銘を受けたと報告があった。学生たちが実習を通して得た多くの経験や学びの報告を聞くことができ、非常に有意義な時間となった。当日参加できなかった学生は別日に個別報告を行った。

【場 所】島根大学医学部
附属病院みらい棟2階
共通カンファレンス室1
【参加者】学生31名(1年生7名、
2年生7名、3年生12名、
4年生3名、5年生2名、
6年生3名)教員4名
実習先指導医2名



令和6年11月30日(土)

令和6年度第5回しまね総合診療の集い

第1部では佐藤優子先生、遠藤健史先生、木島庸貴先生からそれぞれが考える予防医療についてのパネルディスカッションが行われ、明日からの診療のヒントとなる考え方を教示していただいた。

第2部では学生2名によるポर्टフォリオ検討会が行われ、良く考えられた発表であった。発表後のグループワークでも活発なディスカッションが行われ、参加者の理解や考え方がさらに深まった。

第3部では県内の専攻医の先生方の振り返りが行われた。県内の様々な医療機関で、専門医研修を行っている先生方の困り事や学びなどを、普段は直接関わる事が少ない、指導医や医学生に共有して頂き、学生には良い刺激となったようである。

【場 所】島根大学医学部
附属病院みらい棟4階
ギャラクシー
【参加者】30名(学生16名)



令和7年2月1日(土)

第15回中四国地域医療フォーラム

島根大学からは、教員2名と学生2名が参加した。前日にはプレ集会が開かれ、大学と行政機関が、各々の取り組みについて意見交換を行い有意義な時間となった。

本会では「卒前から地域医療マインドを育てる」をテーマに学生も交えて、各大学・県より発表があった。続いて、『学生と大学・行政の地域医療マインドを育てるギャップ』についてグループ討論が行われた。学生からは、早期に地域を体験し、住民との交流を通じて医療を学びたいという思いが伝わり、それに応じていく重要性を実感した。来年は山口県にて開催予定であり、また学生と共に参加したいと考えている。

【主 催】徳島大学大学院医歯薬学研究部
地域・家庭医療学分野/
総合診療医学分野
【参加者】中四国各県の地域医療に関わる
大学関係者・県行政担当・
地域医療支援センター職員、
地域枠卒業医師・地域枠学生他



令和7年2月1日(土)

令和6年度第6回しまね総合診療の集い

第1部では金子淳先生に「研究は臨床現場から始まる：クリニカルエッセイを社会実装に繋げる」をテーマにお話しいただいた。医療の現場で湧き上がる疑問が、どのように研究に繋がり、社会に貢献できるかを、先生の経験を交え具体的な事例を通し「総合診療医育成を目指した臨床研究」の本質を学ぶことが出来た。

第2部では、上村祐介先生が症例を提示後、各グループで活発なディスカッションが行われた。また、参加した医学生が現在取り組んでいる研究についてのプレゼンが行われ、素晴らしい研究内容であった。今年度最後のしまね総合診療の集いであったが、新年度も積極的にセミナー等の支援を続けていきたい。

【場 所】島根大学医学部
附属病院みらい棟4階
ギャラクシー
【講 師】横浜市立大学
ヘルスデータサイエンス専攻
准教授 金子 淳 先生
【参加者】23名(学生9名)



令和7年3月4日(火)

令和6年度第2回えんネット交流会

少人数ながら和やかな雰囲気の中で、医師のキャリア形成や専門医資格の取得と育児の両立について活発な意見交換が行われた。海外では成果を上げつつ家庭の時間も大切にしている医師が多く、その時間管理について質問したところ、留学経験のある医師から、日本と海外の子育てに対する社会の意識や雇用契約の違いについて学ぶことができた。

また、ジェンダーの特性を理解することが、仕事や家庭生活にも役立つことを共有することができた。結婚や育児について具体的なイメージを持っていなかった男性参加者からは、「普段聞けない話が聞けて良かった」との声があり、有意義な会となった。

今後も開催予定ですので、ぜひご参加ください。

【場 所】島根大学医学部
附属病院みらい棟2階
共通カンファレンス室1
【参加者】5名(学生2名)



令和7年3月7日(金)

令和6年度地域医療体験実習Ⅰ(春季地域医療実習)報告会

島根県の7圏域に所在する保健所において、実習計画を立案いただき、関係機関のご理解とご協力のもと実習が無事終了した。実習開始の1週間前には、布野助教によるオリエンテーションが実施され、本実習の詳細について説明が行われた。

また、保健所長からは医療・介護連携や地域の課題について説明を受け、実習施設では地域医療の役割を学んだ。病院や診療所では外来診療の見学や訪問診療・訪問看護に同行し、多職種連携や住民の生活に触れた。

7日の報告会では、各グループに分かれ、「一番印象に残った体験」「地域医療の良い点と課題」「地域医療の課題解決策」について話し合い、各グループの代表者が発表を行った。今回は7名という少ない参加者の中で行われた実習であったが、この報告会を通じて、実習が非常に有意義で実りあるものであったことが伺え、参加者は、地域医療の現状を肌で感じる事ができた。



【参加者】実 習 学生7名
報告会 学生6名
担当指導者 10名



【感染症・地域医療セミナー】 令和6年11月11日(月)

抗菌薬の使い方が変わる！ASTや若手医師のための感染症診療攻略法

先生は島根大学医学部卒業生であり、現在感染症内科医として活躍中である。感染の発症から治療の経過をRPG「ドラゴンクエスト」に例えながら、面白おかしく、わかりやすくお話しをされた。原因菌を確定する検査や治療薬選択の重要性を説き、抗菌薬は適切な種類と期間で使用することの必要性を強調された。

また、感染症診療の内容を分かりやすくまとめられた書籍『まとめ抗菌薬』を創刊され、臨床医学系ランキングで上位を獲得するなど注目を集められた。「抗菌薬を正しく使うことが未来の医療と子供たちを守る」と述べられ、これからは感染症診療について発信を続けることで誰かの役に立ちチャンスをつかんで行くことが大切と話された。

【講 師】鹿児島協病院 副院長
内科部長
感染症内科科長
山口 浩樹 先生
【参加者】62名(学生24名)



セミナー 報告

SEMINAR REPORT

地域医療セミナー ▼

CAREER
キャリアセミナー ▶

令和6年11月18日(月)

仕事も家庭もケセラセラ



【講師】島根大学医学部 法医学講座
助教 木村 かおり 先生
【参加者】36名(学生22名)

先生は小学校まで大阪で過ごし、中高はコネチカット州、大学はマサチューセッツ州で生物学を学び研究を行われた。学生時代、アメリカの作家マイケル・クライトンが書いた「Jurassic park」の本を読まれたのがきっかけで生物学に惹かれ、解剖学が好きになり法医学研究に邁進されたそうである。

研修医時代から出産・育児を経験され、現在、5人の子供のお母さんでもある。仕事と5人の子育ての日常生活は多忙であるが、買い物はネットスーパーを活用して時間を作り、休日には子供さんの野球活動を中心に楽しく生活していると話された。

大変な日々を「ケセラセラ」になるようになる」と困難や未来に対して楽観的で前向きな姿勢で乗り切っておられ、先生の強さと頼もしさに大いに勇気を頂いた。

令和6年12月20日(金)

「地域医療の魅力」 急性期医療と地域医療の視点、 役割の違いについて



【講師】気仙沼市立病院附属本吉医院
院長 齊藤 稔哲 先生
【参加者】22名(学生14名)

先生には5年振りに対面で講演をしていただいた。「急性期医療は重篤な疾患の治療や新技術の開発を担い、地域医療は慢性疾患や終末期ケアを通じて住民の生活を支える役割がある。しかし、どちらも単独では成り立たず、相互協力が重要である。少子高齢化が進む中、地域医療の役割は増しており、納得できる人生を共に築くことが求められている。」また、「地域医療には生き方や死、家族、地域の在り方を考える哲学が必要であり、『治すことも支えることもあきらめない姿勢』で地域住民に元気を届ける存在でありたい」と熱く語られた。

終了後は、学生から活発に質問があり、より交流が深める事ができた。

令和6年12月11日(水)

学生時代の“難しい”を乗り越える・・ 免疫学×膠原病・リウマチ内科の世界



【講師】島根大学医学部 膠原病内科
教授 一瀬 邦弘 先生
【参加者】26名(学生13名)

先生は長崎大学を卒業後、SLE患者の治療経験を通じて膠原病に興味を持たれた。その後、岡山大学大学院で学び、ハーバード大学への留学で腎臓病の研究を深められ、SLEやループス腎炎に関する研究を推進された。帰国後は、SLEが多臓器に影響を与えることや、マラリアとの類似性、耐性遺伝子が自然選択された結果として自己免疫疾患が増加した可能性に注視しているとの事であった。

「SLEではない健康者と変わらない社会生活を送る」ことを目指す「SLEの社会的寛解の維持」が治療の最終目標であると話された。また、患者から学ぶ姿勢や臨床現場での再学習の重要性を強調し、「情熱と好奇心を持ち続け、臨床で学び直してほしい」と後進へのエールを送られた。

令和7年1月24日(金)

救急救命士とは



【講師】広島国際大学 保健医療学部 救急救命学科
教授 安田 康晴 先生
【参加者】30名(学生6名)

先生は、出雲市のご出身で、病院前救急の分野における第一人者である。

まず冒頭では、世界と日本の救急医療および心肺蘇生法の歴史について説明され、続いて昭和時代に始まる消防救急体制の整備や、救急救命士法の制定とその改正の背景について触れられた。また、医師の指示のもとで行われる救急救命処置やメディカルコントロール体制の重要性についても熱く語られた。さらに、今後の救急救命士の新たな役割や可能性、チーム医療の重要性についても議論を展開され、医学生・看護学生・消防職員間で活発な意見交換が行われた。

最後に医学生に対して「お医者様ではなく、良いお医者さん」になってくださいとメッセージを送られた。

令和7年1月29日(水)

最先端の細胞療法で未来を拓く！ 血液内科医として患者さんと 共に歩む～私の挑戦～



【講師】島根大学医学部 血液内科(第三内科)
講師 高橋 勉 先生
【参加者】34名(学生16名)

先生は島根大学を卒業後、第三内科に入局。現在、県内で数少ない血液内科医として活躍されている。先生はある白血病患者との出会いをきっかけに、東京大学で臍帯血移植の研修を受け島根に帰郷。臍帯血・骨髄移植の体制を整え、2005年には当院で臍帯血移植の第一号を実施された。その後、島根大学医学部附属病院で全ての血液疾患が治療可能となり、治療体制の発展に大きく貢献されている。

先生は地域医療への貢献について「地域でも専門性の高い良質な医療を届けられる人材になること、次世代を担う医療人を育てる人材になること」と語り、そして、「自分の興味ある分野にチャレンジし、周囲から必要とされる人材になってください」とメッセージを送られた。

令和7年2月12日(水)

医師として「診療所に来ない人の ことも考える」 母親として「いろいろあった次男のこと」



【講師】浜田市国保診療所連合体 波佐診療所
所長 佐藤 優子 先生
【参加者】34名(学生20名)

先生は東京のご出身で、現在浜田市の波佐診療所にご勤務である。恩師の、「診療所に来ない人こそ問題を抱えている。そんな人こそ考慮するべき」という教えに従い、地域医療を支える実践をされている。地域医療では、様々な事情で医療機関にアクセスできない人々を意識し、地域包括ケアの視点を持つことが重要であると感じた。また、地域課題を話し合う「波佐・小国地域医療等課題検討協議会」や、住民主体の無償ボランティアタクシーの実現にも感銘を受けた。

さらに、医師として働きながら育児や家庭を両立させるための工夫についてお話され、夫婦で地域医療に従事する医師の働き方を知る貴重な機会となった。

令和7年2月19日(水)

My memorable emails～ 心に残るメール集



【講師】島根大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター
教授 鬼形 和道 先生
【参加者】47名(学生20名)

先生はこれまでの歩みを、小児科医らしく成長曲線に例えて振り返られた。「奇跡の4期生」として卒業後、地元群馬に戻り、学会での発表をきっかけに2009年に母校である島根大学へ復帰された。その後、教育に尽力され、優良教育実践賞を受賞された。

「心に残るメール集」には、恩師や指導した学生・研修医との交流の様子が綴られ、先生が多くの学生に慕われていることが伝わった。医学部長としては、COVID-19を経験し、学生の意見を尊重した教育体制を築かれた。その成果として「島根大学に来てよかった」との学生の声が続いていると思われた。

最後に「前傾姿勢」「友人を増やす」「コミュニケーション力向上」の重要性をメッセージとして残された。

COMMUNITY MEDICINE

COMMUNITY MEDICINE

COMMUNITY MEDICINE

CAREER

CAREER

CAREER

『離島で総合診療を実践してみませんか?』



隠岐広域連合立隠岐病院
病院長
徳家 敦夫 先生

医学生の皆さんこんにちは。隠岐諸島はユネスコ世界ジオパークに認定され、自然豊かな島根県の離島です。また、古くから独自の文化や歴史を有し、人情あふれる人々が生活しています。

隠岐病院は全国で最も小さい二次医療圏の中核病院として、また島後唯一の総合病院として、24時間体制で島の医療を守っています。隠岐は、複数の疾患を抱える高齢者が多く、当院では令和2年に立ち上げた総合診療科を中心に、患者さんに寄り添った医療を展開しています。当院の総合診療科は単に複数の診療科をカバーするのではなく、地域を診る医師として、多職種と共に関わりながら、在宅医療から地域包括ケアなど、まるごと安心して島で暮らせる体制を作っています。昨年に島内5カ所の町立診療所を一元化

し、より地域に密着した診療を経験できます。

全国各地から医学生や研修医を受け入れると共に、医療DXを活用した高次医療機関の専門医との遠隔診療や各種カンファレンスなどを通し、総合診療をより深く学べる環境にあります。総合診療医を目指す医学生・研修医にとって、絶好の教育環境にあると思います。

ぜひとも、隠岐病院で、質の高い総合診療を学び、実践してみませんか?

隠岐広域連合立隠岐病院

〒685-0016
島根県隠岐郡
隠岐の島町城北町355
Tel: 08512-2-1356
Fax: 08512-2-6149



地域交流会

「浜田の医学生を応援する会」

日時: 令和6年11月15日(金)
参加者: 26名(学生11名)

令和6年度 雲南市・奥出雲町
地域医療交流会

日時: 令和6年12月13日(金)
参加者: 33名(学生8名)

令和6年度 隠岐出身者地域
医師等との意見交換会

日時: 令和6年12月15日(月)
参加者: 11名(学生0名)



「今後の予定」

キャリアセミナー

令和7年4月14日(月)
講師: 吉野 純 先生
島根大学医学部 腎臓内科 准教授

令和7年5月14日(水)
講師: 野々村 由紀 先生
島根大学医学部 産婦人科 助教

令和7年6月12日(木)
講師: 小池 千明 先生
島根大学医学部 泌尿器科 助教

地域医療セミナー

令和7年4月22日(火)
講師: 木島 庸貴 先生
木島医院

令和7年5月16日(金)
講師: 平原 佐斗司 先生
東京ふれあい医療生活協同組合
研修・研究センター センター長

新入生説明会・
意見交換会

令和7年4月2日(水)18:00~19:30

第1回
しまね総合診療の集い

令和7年4月予定

えんネット交流会

令和7年7月予定

編集後記 この度、地域医療支援学レター第50号の発刊を記念して、デザインを一新しました。発行月は年3回(4月、8月、12月)とし、それに伴いページ数を増やして、二つ折りから巻き三つ折りに変更しました。表紙には、毎号季節の花束をあしらひ、皆様にお届けいたします。あなたが手に取ったその瞬間、きっと皆様にぴったりな花を思い浮かべていただけることでしょう。まずは、新年度を迎える皆様に、新たな旅立ちに対する応援の気持ちを込めて贈ります。

島根大学医学部
地域医療支援学講座
ホームページはこちらから →

